

◇町消防団の陣容◇

消防団長	柚木栄吉
副	杉沢宗作
入善分団長	寺崎重尚
上原	吉沢寿彦
青木	草切啓治
飯野	松島武芳
小摺戸	高見忠義
新屋	森田清作
們山	水野庄次
横山	大田元長
舟見	浜田友吉
野中	野島嘉郎
消防司令補	稲村周作
士長	上田三郎
ク	中野友吉
消防士	上田与次郎
ク	田中武吉
ク	本多春好
ク	長島政一
ク	小堀輝郎

◇ポンプ種別配置表◇

区分	自動車	手挽動力	小型動力	腕力用
本部	1		1	
入善	1		3	
上原	1		2	3
青木	1		1	3
飯野	2	1	2	1
小摺戸	1		3	
新屋	1		5	
們山	1		5	2
横山	1		4	2
舟見	2	1	4	
野中	1		1	
計	13	2	31	11

昭和38年の新春を、みなさまとともにめでたく迎えましたことを心からお喜び申し上げます。

合併後10年、恵まれない立地条件も克服し、きわめて順調に町政の伸展をみましたことは、みなさま方の温かいご理解とご協力によるものと、心から謝意を表します。

ご承知のとおり、本町の財政再建も本年度に完了となりますので、今年度は長期償約3千万円の償還を余儀なくされるため限られた財源のもとにおいては投資的事業も自ずから限定されみなさまのご満足は期し難いと思ひますので、ご承知お願ひたいと存じます。

ことは、あくまで健全財政を基調として、次のことを重点施策といたします。

1 十周年記念事業 2 事務改善
3 減税 4 教育の内容充実 5
道路の維持管理 6 農業構造改善事業の実施 7 清掃事業充実

にゅうぜん

昭和38年1月 No. 81 発行 富山県入善町役場

編集発行責任者 寺崎清作 (電話 入善局 301 ~ 305 番)

昭和32年5月22日 第三種郵便物認可 印刷所 田中印刷所 定価1部5円

冬の交通事故はみんなで防ごう

毎年、一月から二月の真冬の時期には、お酒をのむことが多くて、よっぽばい運転による事故が目立ってふえると同時に、一方では車のスリップ事故や転落事故などがおきています。そこで運転者はつぎのことを守って事故を防いでください。また、各家庭のみなさんも道路の除雪に協力してください。

まず車にはすべり止めをつけることです。タイヤにチェーンをつけないスリップ事故は年毎にふえています。雪が積っているときや、道路が凍りついているときは、ゼビ三輪以上の車はチェーンをつけてください。急ブレーキはスリップ事故のもとです。冬の日安全速度で、しかもカーブやすれちがいには必ず除行を励行しましょう。また、冬は道路の地盤がゆるみます。その上一面の雪で道巾がわから

勇ましいはだか放水

六日午前九時団員約三六〇名と一三台の消防車が参加して役場前広場で行なわれ、米沢消防長(町長)から出場成績優良者退団者に表彰状と、次の民間協力者に感謝状が贈られました。

6日恒例の消防出初め式

浜木源作 笹倉とみ子 宮本俊雄 このあと西町踊り場川で一斉放水を演習、引続き中町通りで寒中すっぱだかになった八名の団員による自慢のはだか放水が勇ましく行なわれました。



帽などを付けると、歩行者の行動がにぶくなりがちになりますから、お互いに十分このことをわきまえていることはもちろん、運転者もそれを計算に入れてハンドルをとってください。夜間の車同志のすれ違いには必ずライトの減光をしてください。雪の反射で目くらみがよりひどく、大事故をひきおこすものになります。また、冬の交通を確保するために家庭のみなさんも除雪につとめてください。すようお願いいたします。

毎月10日事故をなくする日子 子供たちを交通事故から守りましょう

37年度第3回追加更正予算

＜才入＞		
款	追加額 千円	累計額 千円
1町 税	3,000	137,151
2地方交付税	6,300	41,594
3財産収入	589	1,796
6国庫支出金	2,565	23,124
7県支出金	336	36,878
11町 債	6,000	18,000
才入合計	18,790	294,122

＜才出＞		
款	追加額 千円	計 千円
1議会費	239	4,710
2役場費	△145	47,214
3消防費	348	7,577
4土木費	1,296	19,109
5教育費	2,583	60,379
6社労施設費	1,235	37,528
7保健衛生費	67	8,229
8産業経済費	7,741	59,510
9財産費	4,772	7,417
11選挙費	△15	681
12公債費	250	27,527
13諸支出金	420	13,125
才出合計	18,790	294,122

37年度国保2回追加更正予算

＜才入＞		
款	追加額 千円	計 千円
1保険税	1,000	22,523
5国庫支出金	1,410	20,911
才入合計	2,410	49,382

＜才出＞		
款	追加額 千円	計 千円
1役場費	255	3,548
2保険給付費	2,148	41,632
8諸支出金	7	1,326
才出合計	2,410	49,382

第13回町議会定例会

36年度決算認定など14議案可決

◆ 本会議第1日(12月21日)

◆ 専決処分報告の件

◆ 町債借入および償還方法

◆ 起債額 一〇、〇〇〇千円

◆ 目的 入善中学改築事業費

◆ 利率 年六分五厘以内

◆ 借入先 大蔵省資金運用部他

◆ 町税条例一部改正の件

◆ 黒部市・下新川郡公平委員会

規約中一部改正の件

◆ 町道路線の廃止に関する件

墓場線(青木) 中村石垣大島線

◆ 不動産処分の件

地区	堤防欠損	田の流失	土砂流入	家屋浸水	水路埋没	暗渠欠損	田の冠水	船の損傷	その他
管内浪害概況表	(m)	(ha)	(ha)	戸	(m)	(ヶ所)	(ha)	(ヶ)	小の屋
芦下五ノ木	15		0.1	6	80	1	4.0	2	立補
野里根川	50		0.4		250	1	0.6		
十ノ根川					80		0.2		
神木吉春					40		0.2		
古黒部					80	2	0.2		
計	150	0.2	0.7	9	40		0.8		
金 額	300	0.2	0.3	15	60	4	0.6	2	1.500
	515	0.4	1.5		630		6.6		
	81,500千円	1,200千円	744千円		189	1,600	300		

37年度第3回追加更正予算 累計2億9千万円をこす

◆ 本会議第2日(12月24日)

◆ 昭和36年度決算認定の件

◆ 入善町才入才出決算

◆ 国保特別会計事業勘定決算

◆ 直営診療施設勘定決算

◆ 簡易水道特計才入才出決算

◆ 財政再建計画一部変更の件

◆ 37年度第3回追加更正予算

◆ 国保第2回追加更正予算

◆ 町職員の給与に関する条例一部改正の件(人事院勧告の改訂)

◆ 舟川取入口堰堤災害復旧に関する請願 舟見・小森文作 他

◆ 町道上原縦貫線一部拡布改良方請願 上野・草島善一郎 他

◆ 補助金交付方請願

◆ 町農業共済組合長 腰本良造

◆ 町防犯灯新設に伴う電灯料金の町負担方請願 棚山防犯組合長

◆ 町道西入善駅前線道路延長促進

産業建設委員会...

高波被害の現地を調査

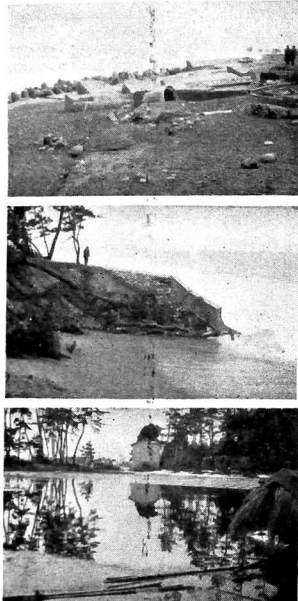
一月七日夜半より八日にかけて富山湾一帯を襲った高波の被害は甚大なので、九日午後一時産業建設委員会が開かれ、現地調査のうえ、応急対策などにつ

いて審議されました。

浪害概況は、上記別表のとおりで、その総額は、八千七百万円が概算され、復旧対策について次のように協議されました。

園家、春日の無堤防地帯は鉄線カゴを入れ、堤防の欠かいは国の直轄または県単で十分に対策をたてる。その他は、町単でまかのうが、吉原の中央河川は暗渠として二月頃着手する。農地災害は五十里、目川、吉原、春日を申請する。

〔写真〕 上は吉原海岸、中は園家海岸、下は下飯野の冠水状況



国保特別会計歳入歳出決算総括表

		(単位千円)		
款	項	予算現額	収入済額	増減
1	国民健康保険税	21,576	21,701	125
2	一部負担金	500	501	1
3	財産収入	500円		△ 500円
4	使用料及手数料	65	82	17
5	国庫支出金	16,555	18,754	2,198
6	県支出金	212	203	△ 8
7	寄附金	1		△ 1
8	繰入金	1,300	1,470	170
9	繰越金	891	891	239円
10	雑収	181	330	149
11	繰上充用金	10		△ 10
才入合計		41,292	43,934	2,642
才出		予算現額	支出済額	不用額
1	役場費	3,032	2,893	138
2	保険給付費	35,356	34,293	1,062
3	保険施設費	2,299	2,296	3,021
4	趣旨普及費	59	29	30
5	財産費	500円		500円
6	公債費	1		1
7	諸支出金	443	394	49
8	予備費	100		100
才出合計		41,292	39,906	1,385
差引残金		4,028,428円	翌年度へ繰越	

簡易水道特別会計決算

才入		才出	
款項	予算現額	収入済額	増減
1水道事業収入	930	413	△ 516
2繰越金	25	56	31
3雑収	14	20	6
歳入合計	969	490	△ 478
才出		不用額	
款項	予算現額	支出済額	不用額
1水道経営費	930	424	505
2諸費	4	1	2
3予備費	35		35
歳出合計	969	425	543
差引残金	64,746円 翌年度へ繰越		

昭和三十六年度一般会計は、才入総額二三八、八八九、一四八円、才出総額二二五、三四八千円で、差引一三、五四一、一四八円の繰越金が生じています。この繰越金から前年度繰越金七六八二、三五七円を差引いた額五、八五八、七九一円が単年度剰余金となります。

なお、本年度は、入善中学校校舎増改築費に五〇〇万円を積

町債一四、〇〇〇千円、繰越金四、六八六千円、財産収入一、

国保直営診療施設決算総括表

(千円)			
歳入	歳出	歳入合計	歳出合計
款項	款項	款項	款項
予算現額	調定額	収入済額	支出済額
1診療報酬	3,222	3,222	2,859
2使用料及手数料	5	5	2
3寄附金	1	1	
4繰越金	135	135	135
5雑収	13	13	387
歳入合計	3,376	3,376	3,384
歳出合計	3,376	3,309	67
差引残金	75,271円	翌年度へ繰越	

監査委員の意見

三六年度決算を、地方自治法第二四二条第二項の規定により町長から提出されたので、審査したところ、収入、支出は、命令に符合し且つ適法に行なわれ計算などに相違なく、いづれも不都合な点を認めなかった。

委員 市岡正義
同 嶋田久之

財政の規模が上回り構造が改善された

1300万円を翌年度へくりこす 36年度決算

二〇八千円の各増収に対し、県支出金九九〇千円、寄附金六〇八千円、使用料および手数料二一一千円が各減収になっております。

毎年財政規模が上回り、財政構造が改善されつつあることは町発展のため極めて結構なことです。

昭和36年度入善町才入才出決算総括表

(単位千円)			
才入	才出	才入合計	才出合計
款項	款項	款項	款項
予算現額	収入済額	収入割合	支出済額
1町税	126,377	128,455	101.64%
2地方交付税	33,741	35,888	106.36
3公営企業財産収入	1,085	1,649	152.02
4分担金負担金	6,265	6,696	106.89
5使用料手数料	4,476	4,446	99.35
6国庫支出金	22,845	22,442	98.24
7県支出金	6,835	7,040	103.00
8寄附金	2,085	4,487	215.21
9繰越金	7,682	7,682	100.00
10雑収	1,659	2,599	156.70
11町債	17,500	17,500	100.00
才入合計	230,550	238,889	103.62
才出合計	230,550	225,348	97.74
才入才出差引残金	13,541,148円	37年度へ繰越	

昭和36年度建設工事一覧表 (土木関係)

工 事 名	工事請負者	工事量m	請 負 額	竣功月日
工場周囲線暗渠復旧	小坂組	1カ所	60,000	36、6、16
舟見入善線装舖準備	加越土建	延230.50	240,000	36、7、5
〃	寺林建設	延 9.50	16,000	36、7、15
岩崎前沢線舗装準備	全上	延 68.50	140,000	36、8、4
西蓮寺線舗装新設工事	桜井土建	延194.70	835,000	36、10、3
西蓮寺線暗渠復旧工事	寺林建設	1カ所	72,000	36、8、25
横山春日線暗渠工事	真岩土建	1カ所	75,000	36、9、20
吉原入善線側溝新設	興和建設	延 49.00	73,000	36、9、20
小摺戸墓木線補修工事	寺林建設	延 70.00	84,000	36、10、25
北羽入入善線舗装準備	桜井土建	延139.50	270,000	36、7、15
青木吉原線片側溝底張	杉沢宗作	延128.70	81,400	36、10、20
愛媛舟見野線一部修繕	黒部土建	延 25.00	19,000	36、12、28
町道寺町線拡張路肩	五十里工務	延 21.40	26,000	36、12、15
町道道下從道線側溝	広川建設	延171.00	227,000	37、3、30
新屋中部線橋梁改良	坪野組	1カ所	25,000	37、3、1
新屋大家庄線橋梁復旧	全上	1カ所	22,500	37、3、1
東狐道古線床版橋復旧	屋木忠義	延 80.0	44,000	37、3、12
舟見水口線一部改良	黒部土建	延 39.00	46,000	37、3、30
〃	全上	延 41.00	99,000	37、3、30
五十里線排水工事	真岩土建	延 40.00	99,000	37、2、28
元学校線道路修繕工事	小坂組	延 52	69,000	37、3、30
元学校線橋台工事	全上	1カ所	88,000	37、3、30
元学校線床版工事	全上	1カ所	65,000	37、3、20
入善駅国道線側溝暗渠	興和建設	1カ所	68,000	37、3、31
舟見水口線床版橋復旧	戸出元雄	1カ所	18,500	37、3、31
町道小摺戸墓木線暗渠	寺林建設	1カ所	98,500	37、3、20
角切床版橋工事	小坂組	1カ所	14,000	37、3、31
西中～山崎線災害復旧	黒部土建	延 75.00	169,800	37、3、20
上町君島線舗装新設	桜井土建	延373.50	4,615,000	36、10、10
小摺戸墓木線一部改良	寺林建設	延161.00	716,000	36、10、25
水口線護岸欠壊復旧	黒部土建	延 16.50	187,000	36、10、30
道下縦道線一部改良	広川建設	延171.00	373,000	37、3、30
舟見～水口線一部改良	黒部土建	延265.50	485,000	36、12、14
計	道路延長 橋渠カ所	2,422.30 11カ所	9,520,700	
八幡用水改良工事	真岩土建	延 20	45,000	36、8、1
高登川水門復旧架設	小坂組	1基	31,000	37、3、25
横山船揚場新設工事	真岩土建	延 11.85	246,000	36、8、19

們山用水護岸復旧工事	鍋島組	延 6.60	101,000	36、12、13
全上	真岩土建	延 64.50	109,000	39、12、25
上原用水護岸復旧工事	興和建設	延 9.00	106,000	36、12、25
計		6件	638,000	
建築関係				
飯野消防器具置場新築	共和土木株	18.00坪	300,000	36、3、31
中央公民館増築工事	高田建設	44.75坪	1,070,000	36、6、10
飯野消防器具置場内装	共和土木株		50,000	36、5、10
入善中学改築1期工事	五十里工務	325.30坪	21,020,000	36、11、30
入善中学便所仮設工事	全上	6.00坪	40,000	36、5、10
糞尿溜新設工事	杉沢宗作	2カ所	60,000	36、8、30
全上	笹原米作	2カ所	60,000	36、8、30
横山小学外部一部塗装	神田道一		125,000	36、9、20
們山消防器具置場移転	荒又土木	20.08坪	350,000	36、9、30
飯野小学校屋根根本葺替	松島久義		198,000	37、1、31
法務局入善出張所新築	柴垣組	53.75坪	4,150,000	37、9、27
入善中学改築廊下仮設	五十里工務	5.5坪	90,000	36、11、25
入中渡り廊下増築工事	五十里工務	1.60坪	50,000	36、11、30
火葬場災害復旧工事	広川建設	33.50坪	1,360,000	37、3、20
計		14件	28,923,000	

36年度決算と新町建設計画との対比表

歳 入	科 目	計 画 額	決 算 額
町 税		105,608,000	128,455,780
地 方 交 付 税		20,095,000	35,888,000
公営企業及び財産収入		247,000	1,649,440
分担金及び負担金		4,150,000	6,696,856
使用料及び手数料		4,063,000	4,446,990
国庫支出金		22,629,000	22,442,791
県 支 出 金		2,982,000	7,040,081
寄 附 金		1,712,000	4,487,197
繰 越 金		1,000,000	7,682,357
雑 収 入		3,165,000	2,599,646
雑 債		3,600,000	17,500,000
歳 入 合 計		169,251,000	238,889,148

歳 出	科 目	計 画 額	決 算 額
議 会 費		4,032,000	4,590,985
役 場 費		29,100,000	33,833,974
消 防 費		9,054,000	8,626,793
土 木 費		15,009,000	18,000,846
教 育 費		26,960,000	53,285,860
社会及び労働施設費		23,582,000	26,217,958
保 健 衛 生 費		5,277,000	7,188,484
産 業 経 済 費		20,775,000	22,491,940
財 産 調 査 費		2,196,000	12,963,055
統 計 費		306,000	367,243
選 挙 費		921,000	456,026
公 債 費		25,334,000	26,314,672
諸 繰 出 金		6,505,000	11,010,160
繰 出 備 費		200,000	
歳 出 合 計		169,251,000	225,348,000

新町建設計画を上回る実績

学校等の造営物の維持管理
に一層の努力を払われた

監査委員意見書の結び

一般会計および特別会計を通じて、決算はその計算に誤りがなく証書および帳簿類は整理され、会計経理は完全である。

また、総体として財政も健全に運営されており、黒字を誇って翌年度に引継ぐことを得たのは殊に喜ばしいことであり、町財政当局の努力を大いに多とする。

とくに、新町建設計画を上回る実績を挙げ得たこと(右表参照)および年度を通じて収入るものと確信する。

支出の計画を樹立し、執行に遺憾なきを期し得たことは特筆すべきである。

敢えて希望を述べたならば、学校その他の町有財産、造営物の維持管理に一層の努力を払われたい。

躍進途上にある本町は、全て健全財政を堅持し、執行にあたっては緩急よろしきを得て、さらに一層の工夫を加えることによって、行財政の運営に完璧を期することができ

入善町風土記

坂東長者の伝説(1)

竹内慎一郎

(第84回)

昔々、田ノ又村(桐山地区田ノ又部落)に「坂東長者」といって金銀財宝に富む人がいた。いつのころからか家運が傾いてきたので、長者はなんとかして家をたてなおそうと苦心をし、次第に強欲になって下男、下女を牛馬のようにひどくこきつかい、非道の行いが多くなったので、誰も使われる者がなくなりました。ある日、筋骨たくましい一人の男が奉公したいと訪ねて来た。長者は下男がいなくなつて困っていたときなので、直ちにその男を備うことにした。男は次の日から、朝は早くから夜おそくまで一心不乱に働き、人間わざとも思われぬ働きぶりであった。長者は大変よろこんで「お前の給金をきめてやろう、望みはないか」と問うた。すると男は「今年の秋が終わったら稲を一荷だけ私に下さい」と、まことに欲のなさそうな返事。長者は「これはまた体に似合わぬ望みじやの、それ位ならいとやさしいことだ」とすぐに承知した。男は秋の終りまで一日も休まず、どんなにひどい仕事をさせられても不平一ついわず、ただ一心に働いた。おかげで稲も大豊作であった。

長者は「さあ、お前の望み通り稲を一荷やるから遠慮せず背負って行くように」と言うと、男は大きな荷縄を前の土手にしき、稲架(ハサ)から稲をおろしては積み、おろしては積み、長く長く連ったハサ場から残らずおろし、更にその上に稲にうさえもくずして積み重ね、背負ってすつくと立って歩き出したので、長者はびっくりしてあまりの不思議さに男のあとをつけると、明日山法福寺の仁王門近くで姿がかき消すようになくなった。仁王門の前までおそるおそる近づく、門前にかけてあるわらじが泥まみれになっているので、長者は男が仏の使いとわかり、一心ざんげして善心に立ちかえり観音堂へ参拝し、無二の信者になったという。

近年まで三十三年ごとの法福寺開帳には田ノ又の坂東家から参詣して御ずしの鍵を開くというならわしは、このいわれからきているという。明日山法福寺の裏山に古いこけむした二基の五輪の塔が建っている。坂東長者の墓といわれている。

明日山法福寺は現在宇奈月町明日の西中谷にあって、真言宗のお寺である。大同年間(一、一五〇年)ほど前に創建され、坊舎十六棟あったが上杉謙信の兵火にかかり、ことごとく焼失したと伝え、天正年中に至つて加賀藩主前田氏の祈願所となり、数度寺領の寄進があった。天正十五年(三七六年前)に藩主前田利長公が法福寺に米百俵を寄進している。なおこの寺に安置する観音像は行基菩薩の作といわれている。春日の明栄寺(真宗大谷派)は法福寺が上杉の兵火にかかったとき、寺僧勸門のがれて春日に來り、真宗に帰依して建立したのであるという。

坂東長者の屋敷跡は今の池原助造氏宅(入善町主事)で屋敷跡と思われる。法福寺の開帳の際は池原氏が門徒総代として参詣し、最上席に着座するならわしとなっている。なお、坂東長者の子孫といわれる人々に坂東賢氏(入善町税務課長)等の一族がある。



東京黒東会の総会
米沢町長も出席

冬にはとくに
ビタミンCを

ビタミンCの一人当たり一日の必要量は、男六五ミリグラム、女六〇ミリグラムとされています。ホウレン草なら六〇グラム、白菜なら一五〇グラムが相当しますが、調理による損失を考えますとこの倍くらいをとる必要があります。

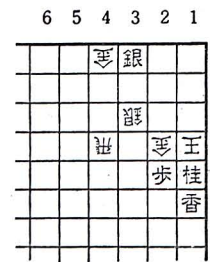
ビタミンCは、ビタミンAと違って、体内に貯蔵されることのないので、前日たくさんとったから今日は少なくてよいというわけにはゆきません。

妊娠中平常の二・三倍のCが必要といわれ、これが十分でないとかぜのもとになりやすいので、冬の病気の予防には、Cをたくさんとるとよいのですが、野菜だけから補給することはむずかしい。そこでミカンや富有がきなどを一日に一個は食べるようにしたいものです。

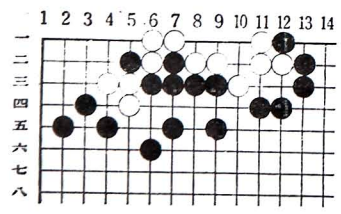
碁・将棋クラブ

詰将棋

持駒 飛・角・金・銀
一 二 三 四 五 六 七



詰碁



黒先で白を取ってください



明るい一家

(別表1) 経営類型と近代化の目標			
経営類型	経営規模の目標		農業機械、実施導入の目標
米 3.0ha	農業基盤整備事業の進捗に即応して、大農機具利用技術体系を集団管理の中で確立する		トラクター、グレンドリル（ダスター）コンバイン乾燥、調整施設
花苺球根 0.5ha	農業基盤整備事業および米の集団管理の計画と有機的関連をもちながら、機械による省力栽培技術体系を確立する		トラクター、スプレヤー、摘花機 堀取機、洗滌機、消毒機、選別機 数よみ機、集荷所、乾燥貯蔵所
市乳 8頭	多頭飼育技術体系の確立、飼料栽培の省力機械化、育成地帯を設定する		トラクター、マニヤス、プレーター 尿撒布機、モア、レーキ、乾燥機、ミルカー、畜舎、堆肥舎、集乳所

(別表2) 基幹作目の改善後の労力目標（計画地区単位当）			
作目	現在	改善後	対策
米（1ha）	240人	40人	大農機具利用と集団管理による営農技術体系確立
花き球根（1ha）	719人	172人	省力機械化と集団栽培による営農技術体系の確立
乳牛（搾乳1頭）	1.8時間	0.8時間	畜舎、堆肥舎施設の改善と搾乳器具の整備
飼料（1ha）	イタリアンライグラス 42人	12人	省力機械化と草地改良による省力化

新着図書案内

女木川界限	田辺貞之助
脳のすべて	時実利彦
現代の悪魔	福田恒存
孤独絶望愛	加藤日出男
実存主義	松浪信三郎
ここに生きる	朝日ジャーナル編集部
現代史の迷	加瀬俊一
若いヨーロッパ	阿部良雄
大和山河抄	山本健吉
空間の国と時間の国々	吉田実
子どもの知恵をのばすお話と遊び	村上幸雄
旅の本	二反長半
おやじ	原田八重
躍進するアフリカ	中近東
	北日本新聞
アルプスの民話	山田野理夫
民謡紀行全集	服部龍太郎
日本の教育	宗像誠也
大いなる競争	山西英一
六〇年代のソ連	内山 敏
株で儲ける人のために	関島利清
ウエルカム・マネ	生田 盛
数学文化史	中山 茂
現代物理学の眼	日本物理学会
暮しの数学	矢野健太郎
日本アルプス	小林国夫
現代豆腐百珍	辻 嘉一
知恵ある生活	大矢仁美
ビジネスマンの健康手帖	鈴木義昭
養豚相談室	鈴木敏郎
農業経営の診断と計画	
	貝原基介
新・色彩の心理	西川好夫
語理語源	寺西五郎
不 毛	平林たい子
告別療治	中林慎一郎

新着図書案内

ことしの営農計画

労力軽減に力を入れましょう

農家のみなさん。年があけると、ことしはあれをしよう、これもしたいと、いろいろの計画が生れてきますが、みなさんの家ではどうでしょうか。

富山県の農業生産を調べてみますと、八〇%以上は米です。

この米は、五年や一〇年では大きな変化はない重要な生産物であり、米の有利性も富山県では極く高い地位にあります。

ですから、ことしも、まず、

米作りの計画が第一でしょう。しかし、今、県の年間所得は五〇万円から七〇万円ほしいというのが現状のようですから、

自立経営農家の育成をはかる

本町は、三六年度に農業構造改善事業計画町村に指定になり主務課において、鋭意計画立案のうえ農林省へ提出してありますが、査定の結果、旧ろう十

二月二十五日付で正式に認定を受けました。

この事業の基本構想は、米を根幹とした花卉球根や市乳を基幹作目として、作業を整備しながら選択的拡大と主産地の育成を合理的に推進することです。そして、米と花卉球根または市乳を複合することによって、他産業と均衡した自立経営農家を育成する方針です。

10年後の経営類型と近代化の目標は、別表のとおりです。

また、土地基盤整備により必要な労働力を省力化して、新経営技術に即応できる基幹労働力の養成するために、改善後の労働目標は別表2のとおりです。

冬の家畜管理の一般的な常識

は、寒さ、雪、風、日光などの気象状況と、運動や飼料給与とくにビタミン類や無機質の不足などについてですが、注意しながらもついでに手ぬかりになりがちです。

雪に備えての家畜管理

また、冬期に入ると家畜の手入れや、畜舎の清潔といったことがとどこうがちになり、疾病の誘発にもなりますから、快適な環境にしてやるのが大切

屋根雪は早めにおろしましょう

火災に備え部落ぐるみ
雪割りをしましょう

(5頁の解答)

詰将棋

3 同王 2 同金 1 同王
2 同王 1 同王 2 同王
1 同王 1 同王 2 同王
詰書正解 1 香成るまで。

です。

とくに注意したいことは
1 室内温度、湿度に注意する
2 敷わらを沢山入れてやる
3 新鮮な水または微温湯を毎日与える。
4 飼料のカビ
たのや、凍ったものを与えないこと。

5 ビタミンDの補給と、努めて日光浴を行なう。
6 畜舎の環境衛生をよくすることなどです。